
swarm bonds

叙情的な魔法少女たちと追憶のHero

瀬津

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

swarm bonds
ro 叙情的な魔法少女たちと追憶のHe

【Nコード】

N1016BA

【作者名】

瀬津

【あらすじ】

FF、テイルズ、遊戯王等がクロス予定のリリカルなのはの小説です。時間軸はstss本編開始から少し経ったところ。基本的に原作に沿ったストーリー展開の予定ですが、それなりの変更も十分可能性あります。キャラの方も、変わっているかもです

t u r n o (前書き)

初投稿です。一発書きクオリティですので過度の期待はしないでください……

今回はプロローグです。なのはキャラは出ないのでアシカラス

アーククレイドルの崩壊は止まらない。

紅いヘルメットを付け、黒髪の青年は、Dホイールでその城の中核へと駆け出す。

(……間に合うか?!)

不安の中、必死にDホイールのエンジンを回転させ、やがて彼はその心臓部に至った。

この城の中心部であるモーメント機関が、マイナス回転を続ける限り、崩壊は止まらない。

そして、マイナス回転を止める唯一の方法が青年 不動遊星がモーメントにDホイールごと衝突し、正常な回転に戻すことだった。

だが、それは自身の命を犠牲にするのと同義。それでも遊星はこの天空城の下にある街を護りたかった。

彼が生まれた街

彼と彼の友が過ごした街

数多の危機と共に生き抜いた街

そこにある想い出を護らんとする意思が、彼をこの死へと続く門に走らせた。

だが、運命は彼にその選択を選ばせなかったのである。

* * * * *
* * * * *

クラウド・ストライフは、しがない運び屋である。

閑古鳥が二、三匹常駐しているような感じではあれど、今のほぼ根

無し草な状況を鑑みれば、まあ商売の出来は良い方である。そんな彼が、ある街をふらりと訪れた時だった。その街にいる知り合いに、ある事を依頼された。内容は、要するに「調査」だ。

市街地から大分離れた所にある廃屋に、突如不思議な凶形が現れたので、取り壊す前に、何か変な仕掛けが無いか調べて欲しいのだからだ。

(……如何わしい仕事を引き受けたものだ)

「廃屋」「凶形」「市街地から大分離れた」この三つのキーワードを聞いて、この世に関わろうと思う者がいるだろうか いや、少なくとも一人いるか。

などともどうでも良い事を考えながらも、地図の通りにバイクを走らせれば目的地に着くのである 否が応でも

「……凄いな」

思わず誰も居ないのに呟いてしまうほどの、見事なボロ屋。二階建てなのだが、屋根は抜けている上に、壁は所々等という騒ぎではない。全体的に塗装が剥けている。周りは雑草が生え放題の上、それは家の中にまで及んでいる。

クラウドは、愛車にダイヤル式の鍵を掛け、念のため、自身の得物をフル装備の状態で背中に背負い込んだ。

中も見事に荒れ放題だった。木製の家具は当然のように朽ち果て、陶器で出来た食器は、埃あるいは泥を被っている。おかげで、陰惨な感じしか抱けない。

「……ハア」

予想は出来ていたが、これは酷い。こんな風になるまで、何故放置していたのだから。

(まあ、解体するのは俺ではないから別に良いが)

意味をなさい憤りを感じつつ、その家屋に土足で踏み込む。

何はともあれ、依頼は遂行しよう。

(二階の書斎と言っていたな……)

踏み抜かれた様な跡がある、古ぼけた木製の階段を上がり、そのまま廊下を突っ切り、奥にある形の歪んだドアを開く。

「……」

確かに、その床に図形があった　淡い紅色に発光している魔法陣が。

その書斎らしき部屋は、本棚以外の家具は無い。いや、むしろ壁自体が本棚とでも表現できるほどズラリと並べられている。そして、そこには本がひたすら、ある種の厳格さを発し続けるように並んでいる。

その魔法陣らしきものは、そういった物を自身の色に薄く染めながら、そこに居た。

クラウドは、身を緊張させながら、その魔法陣に徐々に近づいていく。

何かの罫か、だとしたら、何なんだと言うのだ、これは。

このまま何もしないで帰るのは、契約違反だ　だが

(何か……危険な感じがする

そんな予感とも言つべき感覚を受け、クラウドはその光源に触れる事を渋る。

(……いや、こんな物におびえてどうするとうんだ。とりあえず、どのような物か位の見当は付けなければ)

そう思い、クラウドはそれに触れた。その瞬間

「！」

その魔法陣は光を一層強めた。そのまま、光はクラウドを包み込み、光が消えた後には
静寂しか、残らなかった。

t u r n o (後書き)

読んでいただき、ありがとうございます。感想やツッコミ「意味不明だからここ解説しろ」等もお待ちしております

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1016ba/>

swarm bonds 叙情的な魔法少女たちと追憶のHero

2012年1月2日11時47分発行